

### 山形県空手道連盟30周年



平成七年度は、県空手道連盟にとりまして意義ある年でありました。昭和41年11月12日であり、7年11月12日をもって満30歳を迎えたわけで、人生にたとえれば心身共に充実し目標に向けて実力を発揮していく時でもあり

ります。この意義ある年を「県連盟30周年」と位置づけ、総会において、記念事業実行本部を組織し、記念大会、記念演武会、記念式典の開催、記念誌の発刊などの記念事業を行うことといたしました。さらに、記念事業の実施にあたりましては、加盟団体のみならず

全ての記念事業が「円滑」かつ充実して展開できた事に心より御礼申し上げます。

山形県空手道連盟会長 高橋和雄

# 山形県空手道連盟 30周年記念事業開催!

また、県連盟30周年の足跡を記録した記念誌も近々発刊のはこびとなつていくところでもあります。このように全事業が円滑かつ充実して展開できましたのは、担当役員、加盟団体のみならずのご協力あればこそ存じます。県連盟の活動は、空手道の普及発展をめざすとともに、加盟団体のみならずへの貢献を念頭に置いたものでなければなりません。今後、来るべく35周年をにらみながら、特に加盟団体への貢献について取り組みを強めていただきたいと存じます。



はもとより広く県内企業、団体方々のご支援もいただきました。記念大会、演武会には、小学生から指導者クラスまで多くの参加協力をいただき、記念式典にも来賓をはじめ150名以上の出席をいただき盛会のうちに行事ととり行うことができました。

さまと一体となり実行し、空手道に対する社会的評価を高めるため

また、前回は申しあげました空手道を通じた「人間教育・人格形成」についても、加盟団体のみならず、指導者の演武の協力を得ることができました。合計約三百名の演武者です。各演武者が十分な準備をもって、演武会に臨んで下さいました。小学生・中学生の団体演武の総練習も、指導者の総練習も、当日以外は各々一度だけが行うことができませんでした。高校生は当日のみの合同練習となりました。しかし、団体演武ではそれぞれにまとまりがあり、各団体責任者の指導力と子供達の努力と御家族の御協力を見る思いがしました。また、県連盟の指導者が演武者として一同に集まり、盛りだくさんの充実した内容となりました。そして、限られた短時間の中に迫力ある演武を見せて下さいました。当日は、進行に万全を期しました。演武者誘導、司会進行、音楽担当が三位一体となり、流れるようにプログラムが進行していきましました。全体でのリハーサルは開催はできなかったのですが、演武委員、会場委員で、細部にわたって綿密な打ち合わせをし、当日の流れを十分に把握して臨みました。各委員は各自の役割を果たしながら、自分の順番には演武者として、全体の流れを作ってくれました。また、高校生の補助員のきびきびした動きも、進行を

## 子供も大人も力一杯の演武! 30周年記念演武会に 300名が参加。

山形県空手道連盟の創立三十周年を記念し、演武会を開催することになりました。その演武委員を県連盟の強化部でやることになり、演武委員長の大役を強化部長である私がお引き受け致しました。そして、先生方のお話をうかがいながら準備を進めていきました。まず、各団体に演武者を募ることから始めて、小学生・中学生・高校生、一

**30周年記念フェスティバル**

■記念大会  
9/23日・9時  
天童市スポーツセンター

■記念演武会  
11/19日・13時  
天童市スポーツセンター

山形県空手道連盟

般、指導者の演武の協力を得ることができました。合計約三百名の演武者です。各演武者が十分な準備をもって、演武会に臨んで下さいました。小学生・中学生の団体演武の総練習も、指導者の総練習も、当日以外は各々一度だけが行うことができませんでした。高校生は当日のみの合同練習となりました。しかし、団体演武ではそれぞれにまとまりがあり、各団体責任者の指導力と子供達の努力と御家族の御協力を見る思いがしました。また、県連盟の指導者が演武者として一同に集まり、盛りだくさんの充実した内容となりました。そして、限られた短時間の中に迫力ある演武を見せて下さいました。当日は、進行に万全を期しました。演武者誘導、司会進行、音楽担当が三位一体となり、流れるようにプログラムが進行していきましました。全体でのリハーサルは開催はできなかったのですが、演武委員、会場委員で、細部にわたって綿密な打ち合わせをし、当日の流れを十分に把握して臨みました。各委員は各自の役割を果たしながら、自分の順番には演武者として、全体の流れを作ってくれました。また、高校生の補助員のきびきびした動きも、進行を

支えてくれました。そして、何よりも私の予想をはるかに超えて素晴らしかったのは、多くの方が遠い会場まで足を運び、最後まで拍手、声援をもって演武会を盛り上げて下さったことです。へにはな団体で総合優勝した時、山形県総合運動公園の会場いっぱい響いた大声援を思い出し、不足したことをおわびしつつ、御声援下さいました皆々様に厚く御礼申し上げます。演武会を一言で省けば、県連盟の三十年の歩みを表わすように、空手道が山形県の各地域で、子供達から一般まで広い世代に普及したことを感じました。先生方の長年の精進と各団体の門下生の日頃の練習と裏方で支えてくれた多くの方々の力がみごとにひとつになって結実し、盛大な演武会を作り上げてくれました。又、多数の来賓の先生方の御臨席を賜わり、三十周年記念にふさわしい演武会となりました。皆々様に、心より御礼申し上げます。山形県空手道連盟の新しい歴史に向かってさらに精進していくことを決意したところです。

# 私の空手人生 (一)

## 出会いから憧れの黒帯へ

### 山形県空手道連盟

#### 副会長

# 飛鳥宗一郎

## はじめに

平成7年度は県連盟結成二十周年を迎え、記念行事や式典及び記念誌の発行など、節目の各事業が滞りなく実施されました。実施本部長として、本紙面をお借りし関係各位の御協力、御厚情に衷心より感謝と御礼を申し上げます。

さて、普及部の計らいで私の半生を発表する機会を仰せつかった。さして人様の前で語れる何ものもなく、未成の人間として心中忸怩たる思いだが、連盟（当初は協会）結成以前から空手道に親しみ、組織化に携わった一人として何らかお役に立てればと敢えて承引した次第です。

## I、空手人生

私が初めて空手（その頃は空手道と言わない）を実見したのは、昭和二十八年の夏、新庄北高校三



昭和31年秋 西川町若根沢合宿  
写真と服装の左は、同期の安孫子孝氏（拳友会長）です。

年生一学期終業式の日であった。拓殖大学空手部の公開演武が午後行われると各クラスに通知されたのである。同部は宮城県で夏期合宿を行い、部員に新庄北高校出身者が二名いたため、打ち上げ後に立ち寄ったことである。私は柔道部員だったがその日は練習も休みとなり、大勢の男女生徒と共に体操場（体育館ではない）に参集して待っていた。

やがて演武会は開始され、マネージャーが部員を紹介する。主持・庄司 寛（現・日本空手協会首席師範、副将・金澤弘和（現・国際演武会会長））等々で、後に日本空手界のリーダーとなる紳々たる面々であった。

『空手に先手なし、と言う言葉があります。』の説明から始まり、基本、型（形）、試割り、護身術、組手へと進行し、約一時間で演武会は終了した。部員の真摯な演武に感入り、これが神秘的沖繩武術かと、衝撃が身中を走り胸が熱くなる思いだった。

こんな問い掛けに庄司主持は柔和な面持ちで、技能の練習は段階的に進められ大変厳しいものであること、空手以外の武道も進んで学ぶ機会を求めると、巻藁等による鍛錬も容易でないことなど、懇切に話してくれた。

『空手を学ぶため拓大へ進学したいなら連絡をください。先生にお願いして見ましょう。それまでしっかり身体を鍛えなさい。』という有り難い言葉を最後に、羽前

向町駅まで約五十分間の出来事であった。庄司主持が県内出身者であるなど知る由もない当時でした。これらが直接の切掛けとなるが、空手に対する潜在的な憧れは幼少時からあったように思う。それは父の語りの中に出会いがあったのです。

生家が呉服商のため父は大正末期に山形商業学校（山形商業高校）に入学、柔道部の主将でした。卒業して家業を手伝うようになると素人相撲を取り、結構各地の大会で太竹の「御幣」（優勝トロフィーに相当）を獲得していた。専ら小さな私を相手に柔道や相撲の話題ばかり。その中で、父の山商時代



大学2年生の頃、19才夏

既に一家を成して帰郷した柔道家の尾形源治氏（後に講道館九段）の人柄と卓越した彼の柔道について聞かされたのです。尾形氏は山形高等学校（山形大の前身）の学生や山形市内の中等学校（今の高等学校）生徒の合同練習会で指導し、しばしば空手の技を披露していたとのことである。講道館長・嘉納治五郎氏は、大正十一年第一回体育展覧会で琉球唐手術（当時の呼称）の演武を初公開した船越義珍師（松澤館流創始者）の良き理解者であり、船越師を講道館に招き高段者を対象に唐手術指導を要請しておられます。尾形氏が空手に造詣があつて何ら不思議はありません。空手について深く知らない父を質問責めし、困惑させていたのは小学二年生頃と記憶している。

この日は所用で山形市に向向き一泊。翌日の午後帰宅のため新庄駅で陸羽東線に乗換えたところ、乗車した車輦に昨日の偉人達が鎮座しているではないか。結構混んでおり空席を見付けて腰を降ろしたのが偶然にも庄司主持の真ん前である。まず同席部員の盛り上がりつつ拳ダコを見て驚いたものの、こそこそと決意し庄司主持に言葉を掛けた。

『昨日初めて空手を見た高校生一人です。すこ感動しました。私も将来必ず空手を学びたいのですがどうすればよいのでしょうか。』

『空手を学ぶため拓大へ進学したいなら連絡をください。先生にお願いして見ましょう。それまでしっかり身体を鍛えなさい。』という有り難い言葉を最後に、羽前

## II、実践への歩み

拓大空手部と庄司氏との衝撃的な出会いは、私をすっかり空手の虜にしてしまった。早速家裏の空き地で演武会の一挙一動を覗きに浮かべ、自己流の練習が始まった。立巻藁は電信柱に縄を巻いて代用した。書店に教本などない時代で、郵便局員に空手の本を持つ

ている者がいると聞き早速借りて貪り読んだ。薄っぺらな本で、基本動作とピンアンの型（形）があつたと思うが著者などいっさい記憶に残っていない。

熱心に電柱の巻藁で正拳と手刀を鍛え、夏休み終り頃には拳も幾分盛り上がりつてきた。二学期が始まったとき体操場と柔道場の屋根の葺き替えが行われており、降ろした焼瓦が沢山軒下に積まれていた。これ幸いと試割りに日毎挑戦し、堅い古瓦を三〜四枚重ねて割っていた。一週間程経つたころ担任の先生に呼び出され『再使用する瓦が沢山砕かれていく。飛鳥が割ったそうだが本当か。』と詰問され、有り体に述べ大目玉を食らった。

これらを含め腕白だった私の行状は、母校先生方の口から十数年にわたって後輩に語り継がれたと聞き赤面の至りであった。

卒業も近くなり、地元山形大学文理学部へ受験を決めた。大学要覧に「空手部あり」と記載されていたからである。不合格ならば拓殖大へお願いすればなどと軽感の限りであった。

## III、黒帯への挑戦

運命とも言いましょうか山形大学での空手人生が決定した。入学して早速入部手続き、ここで奥



後輩との練習風景。大学3年生

山守正（元県連副会長）・武田恒哉（元県連理事）両氏をはじめとする良き先輩方・同輩・後輩と巡り逢うことになる。当時は、東北地区大学で空手部があるのは東北学院大学、秋田大学、日本大学工学部と山形大学の四校のみであった。

和道流を称するものの入学した頃の練習体系は必ずしも十分でなく、模索の時期であつたように思う。巻藁を懸命に突き、剣道の防具を着用して突き蹴りと攻防を実践し、立木や野球のバックネットに登って飛び降りたりの毎日だが、各季ごとの合宿練習はきつちり実施し、演武会などにも意を凝らしていた。専用練習場はなく晴天時はグラウンドの隅で、雨が降れば講堂の机、椅子を片付けて、冬ともなれば小体操場のコンクリート舗床の冷たさに開口した。

そうこうするうち一年が過ぎた春休みのこと、神奈川大学に進学していた同郷の先輩が私の悩みを聞き、『同じクラスに空手部員がおり和道流といっていた。交流できるよう頼んでやるよ。』と云ってくれたのである。

二年生の新学期が始まって間もなく、神奈川大学空手部から私宛に一通の手紙が届いた。五月連休時に吉岡主持（秋田県出身）と小林副主持（福島県出身）が指導に来形してもよいとのこと。願ってもない機会と早速返信を出した。大変有意義な春期合宿となつたのは勿論で、終わって思ひは『目標は茶帯』と細やかな願望であった。

六月に入り、彼等から知らせがあり、和道流創始者・大塚博紀最髙師範が近日中に仙台経由で山形を訪れるとのこと。大塚先生と言



初段取得直後 巻ワラを突き鍛錬する。

えは雲上の人であるが誰れもお顔を存じ上げない。ともかく当日は同級の井上俊夫君が山崎駅までお迎えにでることになった。御案内した井上君が『山崎駅で乗車し、車内で大塚先生らしいお方は探し直感で分かったよ。』と言ったの

を想い出す。七日町丹野旅館に宿泊された大塚先生は、『神奈川大学に指導した際、吉岡君から山形大学は熱心に練習に取り組んでいると聞き足を運ぶ気になった』と経緯を話され、二日間の御指導は夢心地で過ぎる思い、先生は又の機会に訪れると約し帰京されました。

その後、夏期合宿でも吉岡氏の指導を受け、念願の茶帯が叶い、秋期昇段審査への挑戦を勧められた。十一月初の審査会には、五日前に安孫子孝君・梶山紀幸君と三名で東京、神奈川大学の道場で最後の調整をお願いした。その日は大塚先生も見えられ一通りの練習が済み掃除も終了したとき、私は華奢な黒帯の部員から『自由組手』を名指しされた。対面して直ぐ相手との技量差を感じたが如何とも仕方がない。防戦に努めるが衆人環視の中で徹底的に痛め付けられた。寄宿先に帰って夕飯を噛む

このとき、多分、私は小生意気極まりない田舎学生と見られ、お灸を据えられたのだと思う。自らの反省より先に『この悔しさを生涯忘れず、今度彼と会う機あらば必ず勝つ。』と心に誓い、その決意が

後の頭張りに繋がったと思うが、気付いて我が身を恥じるのは何年も経ってからであった。しかし、それ以来彼との再会はない。当時の段位審査会は春秋の二回型（形）や基本組手の項目は当日発表である。その頃は見張るかす田園の真つただ中、東京農業大学の道場を会場に精一杯挑戦した甲斐が爽り、三名とも合格と番号が呼び上げられ、晴れて和道流東北地区大学生で最初の黒帯を許された。帰形してやっとな先輩・同輩・後輩への感謝を思うゆとりとなつた。この時同行できなかった安藤忠夫君は、翌春期の挑戦となる。



## 飛鳥宗一郎 PROFILE

- 昭和 10.11 最上郡最上町にて出生
- 28. 7 空手道修行に入る
- 29. 4 山形大学文理学部入学
- 39.11 和道会5段（当時最高段位）
- 40.11 県協会（後の連盟）結成、理事長就任
- 45.10 第1回世界大会審判員
- 46. 4 全空連公認審判員（第1期）
- 46. 9 崇武館空手道場設立
- 52.11 全空連公認7段
- 59. 3 和道会8段
- 平成 6. 2 県連盟副会長

なかなか聞けない素朴な疑問
知っておいていただきたい空手の基礎知識
空手のことなら何でも答える質問コーナーです。

Karate

なんでも

Q & A
Question & Answer

Q 私達が言っている「押忍」について教えてください。
A 幕末で佐賀藩主の鶴島関が藩主に「押忍」を...

Q 私達が空手道を始めると同時に学ぶ「礼」とは、どんな意味があるのでしょうか。
A 礼とは人と相対して、まずその人格を尊重すると...

Q テレビ・本などで黒とか、黄色、または、ラインが入っている空手着を見た事がありますが、私達はなぜ白い空手着なのでしょうか。
A 全空連の組手競技規定の第二条に服装の規定が...

Q 何故(平安)ハイアンとピンアンが在るのですか。
A ピンアンとは平安野中国風のよび方で拳聖系洲安恒先生が明治38年に完成させた...

Q 型の試合で審判が出す得点の採点の仕方、及び合計点数の決め方は、どの様に決定されるのでしょうか。
A 型の演武は、正確な「審判」と力の配分、よい調和と適度な息づかいを...

Q 相手の試合で技有りとはどう違うのでしょうか。また一本はどの様に決まるといえるのでしょうか。
A 次の場合に一本とする。1 上段蹴り2 相手が攻撃を...

Q 組手試合で「無防備」とは何んですか。
A 無防備は、一方または両方の競技者が防衛姿勢を整えない場合を指すもの...

Q 組手試合で「無防備」とは何んですか。
A 無防備は、一方または両方の競技者が防衛姿勢を整えない場合を指すもの...

空手なんでもQ&Aでは、あなたの質問を待っています。どんな質問でも大丈夫。事務局まで応募下さい。

チャレンジ The 黒帯

試合を目指す人、健康のための人。空手をやる目的はそれぞれちがうけど「いつかは黒帯！」思いはみんな同じはず。そこで黒帯目指してがんばっている熱き仲間を紹介します。

黒田新治
渡辺友美
吉川健二
佐藤直記
中山恵一
石川敏博
松田富士雄
大内一志

情報 NETWORK

空手に汗を流す多くの人がいる。県内各支部の活動をお伝えします！

第四十九回酒田体育祭
型と組手に大熱戦！
空手競技会開催。
庄内地区通信員 秋葉美英

ワンダフル・カラテ
大江空手スポーツ少年団、国際会議で演武を国際会議で披露
大江町立本郷東小学校長 兼子 宏

9月7日、大江町立本郷東小学校で、「国際家族計画指導者セミナー」という国際会議があり、世界の17ヶ国の代表の方々が来校した。
地方研修として山形県が選ばれ、うち一日は本校での研修であった。...



# 道場紹介

## 米沢三中空手道部

東北でただ一校、空手部のある中学校。体育館のステージが、みんなの道場だ！

城下町の面影を、今なお残す街、米沢。市内を西に向い、上杉家廟所の先に、米沢三中がある。米沢三中空手部は、教師であ



●前列左から3人目がキャプテンの町田さん

る沖津先生が創部、県ジュニア大会中学の部では、毎回数多くの入賞者を出している。東北でも唯一空手部のある中学校である。



現在、部員数は29名、その内女子が20名と圧倒的に多い。キャプテンは、町田紳さん(2年生)でももちろん女子。空手部への入部動機をたずねたら、「集中力を高めるため」としつかりした答えが返ってきた。目標は、女子部員共通の「あこがれの先輩である、沖津智子さん(中学女子型で活躍、現在高校一年生)」を早く追い越したい。キャプテンとしての、悩みは、力ではかなわない男子部員を上手にまとめる、引つ張っていかねばならない事。しかし、部員の団結は固く、退部する部員はほとんどいない。男子も女子もみんな面倒見が良く、なかなか居心地の良いクラブでもある。

### 米沢市立第三中学校 空手道部 道場訓

- 一 礼儀正しくしよう
- 一 練習に励もう
- 一 広い心を持とう
- 一 血気にはやる 行動を慎もう
- 一 親を大事にしよう

練習時間は、放課後約1時間、1時間半、ホームルーム清掃終了後、部員が集まって来る。体育館のステージがみんなの道場だ。

練習メニューは、その場突



き、その場蹴り、移動稽古とこなし、仕上げは、クラス毎に別れての型の練習。白帯を始めた一年生部員も多く、基本を重視した練習内容である。入部する部員のほとんどが初心者で、三年生の秋に昇段をして、晴れて黒帯をしめ卒業していく。長年指導をしてきた沖津先生が他校に教頭として栄転し、現在は、井上一広氏(県職員)がコーチとして指導している。

顧問である加藤先生におたずねした、三中空手道部の指導方針は、ただ単に技を習得し、体を鍛えるだけでなく、空手を通して、人間として大切な礼儀やたくましさ、やさしさ等の心を磨き中学生としてより良い学生生活を送れる事を目的とし、その思いが道場訓に集約されている。

取材を終えて、残念に感じるのは、3年間空手を修業して、卒業していく部員たちが、高校、一般と空手を続けていく土壌が米沢にはなく、高校入学と同時に他のスポーツやクラブに移籍してしまう。かつて、山形の空手界において一世を風靡し、数多くの名選手を輩出した、米沢の空手。ふたたび復活する事を心より祈念しています。

最後に礼儀正しく、元気に挨拶してくれた部員の皆さん。今後の活躍を期待しています。

## 指導者講習会

県連盟普及部主催による指導者講習会が12月10日(日)に山形市スポーツセンター剣道場に於いて行われました。今回は、全日本空手道連盟の指定型の内、セイエンチン(糸東流)とシオン(松涛館流)の2つについて、それぞれ遠藤隆夫氏(糸東会指導)と佐藤一志氏(日本空手協会指導員)が指導に当たり、田鎖理事長をはじめ各指導者、そして高校生も参加しての講習会となりました。

指導にあたった両氏は、他流派の受講者にも分かり易いように、短い時間内で丁寧に解説、指導して廻り受講者にも真剣に耳を傾けて実際に型の練習に取り組んだ後、質疑応答の時間には細部に渡り様々な質問が受講者から寄せられ有意な講習内容でありました。へにはな国体等でなかなか時間がとれず、ここ数年講習会も開催出来ませんでした。今後は普及部を中心として定期的に講習会を行っていく予定ですので今回受講出来なかつた方は、是非次回の講習に参加して下さい。

尚、同日午後から全空連公認段位の審査会が行われ、次の10名がみごと合格しました。

- 少年部
- 佐藤義彦・鈴木和也
  - 鈴木 悟・菅原一也
  - 梅津一彦
- 一般部
- 片岡卓爾・斎藤安雄
  - 佐藤俊也
- 一般部
- 佐藤ひろ子・白鳥佐知
  - 以上2段

## 私の黒帯 石黒恵子

月日がたつのは早いもので、空手道を離れてから十年以上になります。女性の部最初という大役を仰せつかり、何を書いてよいのやらたいへん困ってしまいました。



思い出せば、高校に入學して間もなく、顧問の小笠原先生に誘われて武道館に足を踏み入れたのが、空手道との出会いでした。それまでは、空手はおるか武道・格闘技の類には縁もゆかりもなかったのですから、何も分からず、ましてや男子部員と同じ練習だし、辛いという思いしかなかったように思います。

そんなある日、たしか緑帯の頃だったと思うのですが、東日本選手権大会に出場させてもらった時の事、先生の黒帯を貸してもらい初めて黒帯を貸して試合をしました。黒帯のおもさとうれしさに妙にはりきつた事を覚えていますが、その大会で優勝してからは、一層空手の世界に引き込まれていきました。

自分の黒帯を初めて試合ができる様になった頃、高校二年のインターハイは今でも忘れられません。それまで負けたことがなかったのに、全国の壁にぶち当たり一回戦敗退という結果に終わってしまいました。思いをし、改めて厳しさを知った時でした。最後に、私をささえて下さった先生方、先輩方にお礼を申し上げたいと思います。そして、今後のますますのご活躍を祈念致します。

## ホットな興さん こんにちは



創刊号の横田治美さんに続き今回ご登場頂くのは、へにはな国体無差別級で準優勝に輝き、現在は県空連強化コーチとして活躍している瀬野利幸氏の奥様「瀬野みゆき」さんをお願いを致しました。

昭和42年1月生 南陽市出身、血液型A 水瓶座 瀬野氏とは職場結婚という事です。手芸とバイクが趣味でスポーツ歴はなし、「瀬野氏のどこに魅かれましたか?」の質問に「背が大きいけれど、よし」と茶目つきたつぷりな答えが返ってきました。

現在、長男の大將くん(平成5年7月生)と長女さやかちゃん(平成5年7月生)と長女さやかちゃん

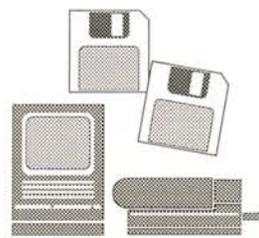
「空手は「生涯修行」と今でも練習を続けている瀬野氏、現役時を思い出して、つい熱が入る事もしばしばとの事でみゆきさんも気の休まる時がないかもいれませんが2人の子供のほかに「もう一人」面倒を見ながら楽しい家庭を築いて下さい。

最後に取材が長引いて大変ご迷惑をお掛けした事を紙面を以てお詫び申し上げますと共にご協力誠に有難うございました。

## 意見募集!

皆さんのご意見を募集しています。創刊号の感想、疑問、感動、要望e.t.c. テーマを問いません。あなたの素直な気持ちを聞かせください。原稿用紙(四〇〇字詰)一、二枚程度にまとめてお送りください。

宛先/千九〇 山形市鈴川町二丁目二二三カラテネットワーク編集室 深瀬久男



## 編集後記

今回の「空手ネットワーク」は、山形県空手道連盟30周年記念事業にもなった記事を中心に作成いたしました。もちろん、我々普及部としては空手道の普及拡大を目標にした記事及び企画づくりも忘れていません。

今回は「空手なんでもQ&A」「チャレンジ・サ・黒帯」「情報ネットワーク」等では現地まで行って取材したり、個々にアンケート方式で黒帯に対する思いを回答してもらいました。

また、審判講習会では新しい試みとして各流派の代表の方に来ていただき、指定型を指導していただき、私自身も大変勉強になりました。尚、今後皆様のご協力が必要となりますので、ご協力よろしくお願いたします。